# 令和３年度「ＰＴＡだより」卒業式記念号

令和４年３月１日

## 祝　辞

PTA 会長　夫馬　孝友

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様が立派に成長されこの日を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。
校長先生をはじめ先生方におかれましてはコロナ禍というとても難しい状況の中、生徒たちのことを最優先に考え、導いていただきましたことに保護者を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。
さて、卒業生の皆さん今こうして皆さんの顔を拝見しますと立派な青年になられ頼もしく感じます。約 18 年前、生まれてきてくれた感動は今もはっきり覚えています。わがままも言いましたが、かわいくてしょうがなかった幼少期　小学校高学年になるにつれしっかり反抗期が訪れましたが、高校三年間で心身ともに成長し、いろんな話を笑顔でしてくれるようになりました。　父として本当にうれしく思います。

皆さんは本日卒業という区切りの日を迎えられ、新しい生活がどのようなものになるか期待と不安が交錯していると思います。そのような折、この機会をいただけましたので、私が普段から心がけている事を紹介したいと思います。

「俯瞰的に物事を見る」
一般的に俯瞰というと「外から物事の全体の局面を客観的に見ることができること」とありますが「言うは易し」でなかなか身につきません。
平時では支障がなくても、難しい局面が生じたとき、この俯瞰する力がないと混乱する事があります。それでは、大局的なモノの見方や判断ができるようにするためどうしたらよいか？
　まず 1 点目、「見方」を変えてみることです。「見方」を変えると、引き出しが増えます。目の前にあるモノも横や後ろから見たら全く違う姿だったというのはよくあります。
　そして、2 点目は、「何事にも興味を持つ姿勢」を忘れずにいることです。
いろんなことに挑戦して経験値を積んでいきます。人生の幅が広がります。
　3 点目は、「いい意味で疑う」ことです。
マニュアルやガイドライン、指針、いずれも大切な羅針盤ですが、「どうしてこう決まっているのか」「この場合は解釈が違うのではないか」といった「健全な疑念」を持ちながら利用するとセンスが磨けます。

そして、4点目は、「深呼吸」です。
普段は俯瞰する事が出来ていても、いざという時に感情が高ぶって冷静に判断できなくなります。これに効く薬の一つが「深呼吸」です。むっとなった時、少し間置きながら2回深呼吸をすると、理性が戻りますので試してみてください。

昨年の大河ドラマの主人公で2024年度に発行予定の新一万円札の顔となる澁澤栄一の言葉を紹介したいと思います。
「世の中の事はすべて心の持ちようでどうにでもなる」です。
これから長い人生楽しい事ばかりではありません苦しい事つらい事様々訪れます、先ほどの俯瞰するではないですが、少し間合いを置き考え直すことによって少し気持ちが楽になるのではないでしょうか。

最後になりますが、大人でも大いにうろたえてしまった、そして、いまだ右往左往しているコロナ禍を、皆さんはしっかり対応しながら、勉学や部活におおいに取り組み、この度、卒業を迎えられたことは本当にすごいことだと思います。自信をもって次のステージでも活躍していただきたいと思いますし、間違いなくできると思っています。

皆さんの卒業に心からの祝福をお送りして、ご挨拶とさせていただきます。
ご卒業、本当におめでとうございます。

## 「創造と勤勉」の精神

**校長　　前川　晴彦**

保護者の皆様、お子様が晴れの門出の日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、これまでの３年間、本校の教育活動にお力添えいただき、本当にありがとうございました。

41 回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが過ごした３年間のうち、最後の２年間は、コロナ禍によってこれまでと違う生活になりましたが、その中で真摯に勉学に打ち込み、部活動・行事に躍動した皆さんの努力は、大変素晴らしく、賞賛に値するものです。南高校での３年間に、どうか自信を持ってほしいと思います。

さて、今、世界は、ロシアによるウクライナ侵攻に大きく揺れ、コロナの感染拡大も出口が見えません。しかし、こうした状況もいつかは終わり、新たな日常が始まると思います。今後、社会はどのように変化していくのでしょうか。

経済学者のピーター・ドラッカー氏が「未来を予測することはできないが、すでに起こった未来の断片は見つかる」という言葉を残しているように、すでに今の社会に、まだ見ぬ未来の一部分が姿を現しているように思います。その１つが、デジタルトランスフォーメーションと呼ばれる、デジタル技術による変革です。

コロナ禍は社会の欠陥をあらわにしたと言われますが、日本の場合、それはデジタル化の遅れでした。２年前の緊急事態宣言の発出以来、在宅勤務や休校措置、様々な経済上の対策や支援が行われてきましたが、どの分野でもデジタル化の遅れが大きな問題になりました。その遅れを挽回し、世界に追いつくため、あらゆる分野で改革が始まっています。

教育の分野であれば、小中学校に１人１台の端末が配付され、高校でも今年の秋に、端末が配付されることになりました。小学校では今年からプログラミング教育が始まり、皆さんが先日受検した共通テストには、３年後、教科「情報」が導入されます。こうした動きが示すように、デジタル技術が、社会で暮らす人々すべてに必須となる時代が近づいています。

そして、皆さんはこのデジタル社会の主役として活躍が期待されています。皆さんは、自分たちの世代がＺ世代と呼ばれているのを聞いたことがあるでしょうか。Ｚ世代とは、幼少の頃からデジタル機器やインターネットになじみ、ＳＮＳを自在に使いこなす世代といわれています。デジタル時代の申し子である皆さんの登場を、社会は心待ちにしています。

それでは、今後のデジタル化社会では、どんな力が求められるのでしょうか。

まず、どんな社会であっても変わらない、社会人として必要な心構えがあります。それは自分で課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする姿勢と、周囲と協調し他人を思いやる心です。これらはすでに３年間の高校生活の中で、皆さんが求められてきたことでしょう。そしてさらに、私が付け加えたいのは、新しいことに挑戦する気持ちと、結果が出るまで努力を続ける気持ちです。今後大きな変化の時代が待っているからこそ、変化をむしろ楽しみ、失敗にくじけることなく、チャレンジ精神を持ち、努力を続けることが大切です。

そうした挑戦と努力の姿勢は、スポーツの中により顕著に表れます。今年は、東京オリンピックと北京オリンピック、２つのオリンピックを見ることができた年でした。選手たちは無観客という状況の中で、自己の能力の最善を尽くし、コロナで苦しむ多くの人々に感動を与えました。その１人に、東京オリンピックの体操男子個人総合で金メダルに輝いた、橋本大輝選手がいます。　橋本選手は、もともと小児ぜんそくで身体が弱かったそうでが、体操に出会ってからは「他の人よりも一本でも多く練習する」ことを目標に練習を続けてきたそうです。技が１回成功しても、３回続けてできて本当の成功だと努力を重ね、その結果が金メダルにつながりました。まさに「努力に勝る天才なし」を体現する活躍といえます。もちろん、選手にとって、努力がすべてメダルにつながるわけではありません。北京オリンピック、男子フィギュアで４位に終わった羽生結弦選手は、試合後「正しい努力」をしてきたつもりだったが、「努力は報われない」と語りました。

しかし、選手たちは挫折を力に変える精神力も兼ね備えています。モーグル女子５位の、

17 歳の川村あんり選手は、「私もちっちゃい頃から頑張ってきた。諦めなければ、夢は叶うと伝えたい」と言い残しました。先ほどの羽生選手も数日後の記者会見では「明日の自分が、今日を見た時に胸を張っていられるように、これからも過ごしていきたい」と語りました。

メダルを取る、取らないにかかわらず、私たちは選手が努力を積み重ねる姿や、次のステージに全力で挑もうとする姿勢に感動し、明日への活力をもらいます。それは、私たち自身も全力で人生を送りたいと思う気持ちがあり、選手の姿にその理想を見ているからです。

私が皆さんに望むのは、こうした努力と挑戦の姿勢です。それは、本校の校訓「創造と勤勉」の精神でもあります。努力の積み重ねである「勤勉」の果てに、「創造」は現れます。努力自体は目に見えませんし、日々積み重ねるしかありません。いわゆる足し算の数字のようなものでしょう。しかし、小さな数字が重なれば大きな数字となるように、努力を続けている人は、ある時急に成長したり、新たな気付きを得て、道が開けることがあります。それまでの努力が自分の考え方や才能と掛け合わされて、相乗効果が生まれるからです。ドイツの作家ゲーテが「天才とは、努力し得る才能である」と言ったように、この世に生まれついての天才がいるわけでなく、努力した人が創造的な仕事をする天才となるのです。

さあ、皆さん、今日、校門を一歩出れば、そこは世界とつながっています。皆さんが、「創造と勤勉」の精神を胸に、常に高い目標を持ち、この広い世界の中で、全力を尽くす人生を送られることを期待して、私のはなむけの言葉とします。

## 「目に見えないモノ、見えたモノ」

**学年主任・１組担任　小原　尚**

コロナ禍の２年間、今までの日常と大きく異なる経験をしました。全国一斉臨時休校、そして２年生最初の２週間は、分散登校でスタートしました。マスクを外すことは許されず、手洗いとアルコール消毒の日々。黙食という言葉が生まれ、時にコミュニケーションをとることも禁じられました。「目に見えないモノ」新型コロナウイルスと戦ってきた 2 年間は、大変な毎日でした。そんな状況下で高校生活を送ったみなさんの心に残る思い出・出来事は何でしょうか。ここしかないという絶妙なタイミングで北海道へ修学旅行に行けたこと。夏補習後の短い時間で準備したクラス企画。マスクがずれるほど激しかったスチールドラゴン。たくさんの制限がある中で何ができるのか、自ら考え、仲間と同じ時間を共有し、試行錯誤した日々は、かけがえのない思い出になったのではないでしょうか。

私自身が一番印象に残っていることは、受験生として目標に突き進んだ、最後の１年間です。２年生３学期に掲げた０学期。“ONE TEAM”をもとに、本格的な受験勉強をスタートさせ、自分の将来に向き合い、最後までやりきることを誓いました。長くて、苦しかった受

験勉強。思うように模試の結果が伸びず、多くの涙にも遭遇しました。

卒業式前、受験を終えた多くの生徒が、「受験は、団体戦だった。苦しい時も、隣の友人の頑張りが見えて、それが励みになった。入試直前の最後の１ヶ月が一番伸びた。」と報告してくれました。受験で本当に苦しかった時に「見えたモノ」、一人一人の奮闘は、41 回生全体の励みとなり、最後までやり遂げようとする強い原動力と、やりきったという達成感へとつながりました。

コロナ禍で、高校３年間を過ごした経験は、確実に自分の力になっています。これからも人生を左右する様々な出来事に直面するかと思います。苦しいこともたくさんあります。しかし、そんな時は、一宮南高校で仲間とともに過ごし、最後までやりきった経験を思い出して、乗り越えて欲しいと思います。

41 回生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。卒業式では、成長した皆さんの姿を感じ、学年主任として関わらせてもらえたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんの更なる飛躍と今後の活躍をお祈りしています。３年間本当にありがとうございました。

## Be the FIRST PENGUIN

２組担任　尾花　梓

The “First Penguin” is the first penguin that courageously jumps into the ocean in search of food, despite the possibility of encountering dangerous predators.

ファーストペンギン：集団で行動するペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛びこむ勇敢な１羽のペンギンのこと
この“First Penguin”とはペンギンの習性から名づけられたものですが、時にはベンチャー精神あふれる起業家や、必要以上にリスクを恐れずに新しい挑戦をする人のことを「ファーストペンギン」ということがあり、英語圏でも、勇気をもって行動する人のことを“First Penguin”と言います。

ところで、みなさん、たこ焼きは好きですか？私はよくたこ焼きを焼いて食べます。日本ではみんなが好きな食べ物の 1 つだと思いますが、私のオーストラリアのホストマザーはたこ焼きを食べません。なぜならたこが入っているからです。日本ではごく普通に食べられているものですが、たこを習慣的に食べる国は多くはありません。イギリスではあの見た目から devilfish「悪魔の魚」と呼ばれ避けられていました。これを聞けば私のホストマザーがたこを食べない理由もわかります。と同時に、美味しいたこ焼きがある日本のたこ文化に感謝です。しかし、これもたこを最初に食べた人がいるからで、他国では「悪魔の魚」とまで

呼ばれているような姿のたこを初めて食べた人は本当にすごいと思いました。そして、話は戻りますが、たこを初めて食べた人こそ“First Penguin”だと思いませんか。“First Penguin”がいたからこそ私たちが今たこ焼きを楽しめているんです。

話は長くなってしまいましたが、卒業生のみなさんには是非“First Penguin”になってほしいと思います。リスクを恐れず勇気を持って新しい挑戦をしてください。集団の中からはみ出たり、誰もやっていないことをやるのは、とても不安だと思います。しかし、その先には結果だけではなくそれ以上の経験が得られるはずです。この一宮南高校で 3 年間がんばれた皆さんなら、きっとできると信じています。

Be the “First Penguin”!　Go and conquer your dreams.　May your future be fruitful and may peace, health, and joy be with you in every walk of your life.　My best wishes are with you. ☻

## 「君たちはどう生きるか」

**3組　担任　稲山紀彰**

もしも君が、学校でこう教えられ、世間でもそれが立派なこととして通っているからといって、ただそれだけで、いわれたとおりに行動し、教えられたとおりに生きてゆこうとするならば、コペル君、いいか、それじゃあ、君はいつまでたっても一人前の人間になれないんだ。
（中略）肝心なことは、世間の目よりも何よりも、君自身がまず、人間の立派なさがどこにあるか、それを本当の君の魂で知ることだ。そうして、心底から、立派な人間になりたいという気持ちを起こすことだ。
（中略）いいことをいいことだし、悪いことを悪いことだとし、一つ一つ判断をしてゆくとにも、・・・・いつでも、君の胸からわき出てくるいきいきとした感情に貫かれていなくてはいけない。（吉野源三郎・原作、羽賀翔一・漫画『君たちはどう生きるか』）

　さて、卒業生の皆さん、新しい生活が始まろうとしています。順風満帆なことばかりではないはずです。自分の選択した進路に疑問を持つこともあるかもしれません。そんな時は、好きでも嫌いでも「とことん取り組む」ことです。本気でやれば、いつの間にかそれが面白くなり、生きがいになり、未来が広がります。人生において、全力で取り組んだり、学んだりした経験は、必ず何らかのカタチで人生を切り拓く力になるはずです。
　最後に、皆様の今後のご多幸とご活躍を祈っています。3 年間ありがとうございました。

## 「途中式」

**４組　担任　玉城雄也**

卒業おめでとうございます。

３年間で、みなさんが「途中式」という言葉を使ってくれるようになって嬉しいです。「数学には途中式があるのに、国語に途中式がないのはおかしい。途中式を書け！」というのが僕の一貫した主張でした。始めは途中式の概念も曖昧で、書き方もわからなかったのに、みなさんは受験期になると喜んで僕に途中式を見せに来てくれました。洗脳とはこのことですね。「途中式」を僕自身が意識するようになって思うのは、「途中式が楽しい」ということです。確かに解答を完成させる喜びは大きいけれど、考える過程での発見や視野の広がりは心地良さを感じさせます。成長実感もここにあるのではないでしょうか。

人生も同じだと思うのです。夢や目標を達成する喜びは誰もが望むものでしょう。高校受験、大学受験、就職試験など、夢が叶うことを望まない人はいません。しかし、達成の喜びは一時的です。明日になったら忘れます。でも、夢を追いかけているその瞬間の喜びや楽しさ、充実感はいつまでも心に残ります。みなさんも３年間を振り返ってみてください。進路実現は確かに大事です。人生の大きな岐路だと考える人もいるでしょう。では、思い出深かったことは何ですか。今の自分を作っているのは何ですか。それは、目標達成ではなく「夢を追い続けて努力したこと」ではないでしょうか。結果はもちろん大事だけれど、その過程である「途中式」が楽しいのです。「途中式」が人生を充実させるのです。

僕は自分の人生の中で、いくつかの小さな夢を叶えてきました。そして今も夢を追い続けています。その中で僕が得たものは「夢そのもの」だけではありません。夢を追う過程にあった充実感や成長、出会った人達です。これからみなさんは新たな夢を抱き、旅立ちます。覚えておいてほしいことは、「途中式が楽しい」ということです。「目に見えない大切なものは途中式に隠れている」ということです。いつまでも夢を追い続け、途中式を楽しんでください。健闘を祈ります。

## 卒業おめでとう

**５組担任　浅野　彩**

いよいよ、自分の人生を歩み始める大きな 1 歩を踏み出しますね。これまでの決められた道とは違い、それぞれが自分で選択し、決断した道へと進みます。夢に向かって進む 1 歩、新しい世界に踏み出す１歩、少し寄り道をする 1 歩、それぞれ進む道は違いますが、自分で歩み出す人生のスタートです。

新たな門出を迎える皆さんへ、私の好きな歌を送ります。

そんなに遠い目をして　君は何を見ているの
昨日を振り返るなら　見えない明日に目を凝らせ
こんなに強い自分が　いることに気付いたのは
この道が誰でもない　自分で選んだ道だから

しがらみの中をかき分けて進め
傷だらけの両手が　いつの日か輝いて見えるまで

開いた扉　通り抜けても　それじゃ強くなれやしないよ
閉じた扉　タタキつぶしてゆこう　君の未来のほうへ

コブクロ「轍」

迷って、悩んで、進んだ道は山あり谷あり、楽な道ばかりじゃないかもしれません。でも自分で決めた道ならば、どんな道でもきっと楽しめるはずです。寄り道、回り道も無駄ではないし、無駄にならないようにすべて自分の糧にしていこう。すべては自分の捉え方次第です。

自分を大切に。大切に思う家族、仲間を大切に。これからも笑顔を忘れず、素敵な人生を歩んでください。

## 「感謝の気持ち」

**6 組担任　榊原涼太**

41 回生のみなさん、卒業おめでとうございます。自分が担任をもつクラスでは毎回最初に、「できて当たり前だと思うことを当たり前にできるようになろう」ということを話してきました。毎回緊張しているので定かな記憶ではないですが、たぶんそのようなことを話しているはずです。

今、当たり前にできることは？と聞かれて何を思い浮かべるでしょう。考えてみて浮かんでくることは、きっと意識してできるようにしていることで、浮かんではこないけど指摘されたらできてなあと思うことは無意識にできていることだと思います。「自分の周りの人に対して感謝の気持ちをもつこと」は後者ではないでしょうか。3 年生の終わりごろに書いた振り返り用紙に、家族・友人・先生へ伝いたいことという欄がありました。そこに一番多く書かれていたのは「ありがとう」という感謝の気持ちでした。それを当たり前にできることは本当に素晴らしいことだと感じます。そして、そんな素敵なみなさんと 3 年間も一緒に過ごすことができて幸せに思います。3 年間ありがとう。

これから新たな生活がスタートしていきます。それぞれの目標までにはきっと様々な困難もあるでしょう。そんなとき、すべて一人で抱え込まないようにしてください。少しだけ視野を広げてみれば、みなさんの周りには支えてくれる人たちが必ずいます。その人たちに対して自然に感謝の気持ちを持てるみなさんですが、その思いをどうか大切にしてください。誰かを支えることができる人は、その思いを大事にしてきた人です。いつかみなさんも誰かの支えとなるような人になってください。

## 卒業おめでとう

**7組担任　　川合久美子**

厳しかった寒さも緩み、校庭を照らす柔らかな日差しが春の訪れを感じさせます。見慣れた同じ景色も、今日は新鮮に見えます。

いよいよ卒業ですね。三年間を振り返ると、たくさんの事が思い出されます。特にこの1年は、駆け足で走り抜けたようです。皆にとっては、ひと言では言い尽くせない1年でしょうか。0限から業後までの補習、一日中の模試、忙しい中で準備した学校祭、夏・冬休みのびっしり詰まった補習、共通テスト近くになってからの緊張感、受験……。この3年間で強く逞しく成長しましたね。君達の溌剌とした若さ、頑張りを身近に感じて、喜怒哀楽を共にできたことを嬉しく幸せに思っています。

「登山の目標は、山頂と決まっている。しかし、人生の面白さ、生命の息吹の楽しさは、その山頂にはなく、却って、逆境の、山の中腹にあると言っていい。」（吉川英治）

山頂まで一足飛びに登らなくても、途中で辛くて立ち止まったからこそ、草木や小川、周りの風景に心を動かすことでしょう。そして山頂からの眺めに自信を得ることでしょう。

卒業は、新しい始まりですね。色々なことに挑戦し、多くの人と出会い、たくさんの経験を重ねていきましょう。成功からも失敗からも学ぶことがあるでしょう。どんな経験も糧となり人生を豊かにしてくれます。でこぼこ道でも、回り道でも、思わぬ処に辿り着いても、前へ進みましょう。自分だけの道を拓いていくことを心から願っています。卒業おめでとう。

## 「“いい顔”で」

**8組担任 井上 元成**

顔はその人の意思、気持ち、生への姿勢を映し出します。 部活動に真剣に打ち込む“いい顔”、学習時に一生懸命考える“いい顔”、学校 行事を味わい尽くすほど楽しむ“いい顔”。そ

れぞれの表情は違います。しかし、一生懸命な表情とその姿勢は人の心を動かすことができるほど素敵なものです。

幼少の頃は、ほぼ持って生まれた顔のままで人生を送りますが、大人になるに従って「生き様」や「人格」が顔に表れてくると言われます。人の顔は「人生経験の履歴書」とも言われ、生活環境、習慣、人との関わり方、などの外的要因が表情に大きな影響を与えるそうです。大事な局面での選択も本人の生き様であり、その後の表情に影響を与えるでしょう。毎日を一生懸命生きることができる人は、誰しも良い表情で生活しています。みなさんは日々どのような表情で生活してきましたか？小学生、中学生の時よりも素敵な表情で生活できましたか？

４１回生の皆さんが“いい顔”をしているか。もっともっとみんなを“いい顔”にしてあげたい。そして自分もいつも“いい顔”でいたい。たった１年間の付き合いではありましたが、この１年間は毎日そんな思いで皆さんの前に立ってきました。次のステージでも“いい顔”で生活し、周囲の人を“いい顔”にしてあげて下さい。卒業おめでとう。

**後輩へ贈る言葉**

## 「今、目の前にあることを全力でやる」

**３年４組　柴辻　万悠**

在校生のみなさん、今までありがとうございました。本日、僕たち 41 回生は卒業します。

３年間を振り返って感じることは、「今、目の前にあることを全力でやる」ことの大切さです。２年生からの２年間はコロナ禍での学校生活となりました。学習、部活動、行事は思うようにできず、つらい思いをすることもありました。しかし、一宮南高校の仲間たちや先生方は制限される中でもポジティブな姿勢を持ち続けていて、自分たちにできることを常に探していました。僕は強くそれらの人に刺激され、「今、目の前にあることを全力でやる」ということを心に決めました。目標としていた大学に向けて仲間と切磋琢磨して学習し、所属していたバドミントン部では必ず毎回参加し、行事には積極的に参加してきました。すると、少しずつ自分の生活にも希望が見えてきたのです。思い通りにいかない状況に不満を言うのではなく、今ある状況を前向きに捉えなおすことで、周りの見方が変わることを実感しました。

在校生のみなさんも、現状と向き合い、努力する中で残りの高校生活を楽しんでください。健闘を祈ります。

先輩へ贈る言葉

# お世話になった先輩方へ

2年8組 丹羽 紗雪

この度はご卒業おめでとうございます。

私は入学当初、臨時休校や分散登校を経て始まった高校生活に不安でいっぱいでした。しかしそんな時、私の目から先輩方はより一層頼もしく見え、その姿に憧れを抱きました。

コロナ禍で行事などが制限されてしまったため、直接関わることが少ないまま卒業されてしまうことをとても寂しく思います。

また、先輩方とお別れする時がこれほど早いとは思いもしませんでした。

そんな中で関わりを持つことが出来た文化祭。行事に全力で取り組み、切磋琢磨する先輩方は、私たちを引っ張ってくださいました。 最高学年としてあるべき姿を私たちに示してくださり、ありがとうございました。

今後先輩方が、さらにご活躍されることを心から願っています。

最後になりましたが、約2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。